



ペシャワール会

PESHAWAR-KAI

生活協同組合パルシステム東京組合員の皆様

2002年9月から長きに亘りペシャワール会中村哲医師・PMS(平和医療団・日本)のアフガニスタンにおける活動にご理解と支援を賜わり、深く感謝申し上げます。

中村哲医師の活動は1984年のパキスタン・ペシャワールでハンセン病を柱とする医療に始まり隣国アフガニスタンでの灌漑用水路建設、さらに用水路の工法の普及に至るまで、一貫して「命」を念頭に置いたものでした。

2019年12月に不幸な事件のため中村医師は命を落としましたが、村上優ペシャワール会長がPMS総院長に就任し、中村医師が実践してきた事業はすべて継続し、希望は全て引き継ぐと決意し、PMSの活動は続けられています。

PMSの灌漑用水路建設によって約16500ヘクタールの農地が一年を通して安定的に灌漑され、65万人が生活できるようになりました。かつて沙漠であったガンベリにも農場が開かれ、そこでは命の証である鳥の声、ハチや虫の羽音、そして子どもたちの声が聞こえるようになりました。このような農地をさらに広げるため今後もPMSの事業は変わらず続いてまいります。そして日本側ではペシャワール会がその事業を支えてまいります。

どうぞ末永くご理解ご支援をお願い申し上げます。

